NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞から見える人々の営みとその本質を探る

2．学校名

静岡大学教育学部附属静岡中学校(静岡県)

3．実践者名（代表者名）

長田　裕次

4．学年

第2､3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　第2学年80人　第3学年80人

6．単元（本時の学習課題）名

「日本の明日を切り拓く農業」～私たちの暮らしを問い直そう～

7．目標(狙い)

・日本で起こっている問題を自分なりに整理し､何がその軸となっているのか明らかにする。
・整理したものを他者に紹介し､そこにある本質的な問題を問うことができる。

8．評価の視点

・自分なりの視点をもち､世の中の動きに対して関心をもち､多面的にとらえることができたか。
・他者への紹介を通して､本質的な問題は何かと問い直すことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

地理･歴史､公民的分野の学習全般にわたって実施
例　日本の人口の変遷　　・日本の農業　　・偉人の功績から見る日本　　・知事選に静岡の将来

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

〇日本の人口の変遷
・中国と日本の人口変遷の比較から日本の将来像を探り､世界像との課題をとらえる。
〇偉人の功績から見る日本
・坂本龍馬から見る偉人特集を､自分なりに考察し､他の偉人が志していたことは､今の世にどのような影響を及ぼしているのか問う。
〇知事選に静岡の将来
・2009年の夏に行われた静岡知事選挙のマニュフェストを通して､政治に参加することの意義をつかむ。
(留意点)
・広く世の中には自分たちが気づかないところに､様々な問題や人々の営みが内在していることに目を向け､そのまとめとして単元ごとにレポートを作成する。
・生徒の追求過程を把握し､学びをその子や全体に返すことで､次時に生かせるものを記録として蓄積する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞には､いろいろな情報があるけれど､それらは自分の生活にかかわりがあることを感じた。
・新聞を追求の資料としたいけれど､自分が必要とするような情報がすぐに出てこない｡Webのように検索が掛けられず､調べをするのにも時間がかかる。

12．成果と課題

子どもたちが暮らしている現代社会において､より速く多くの情報を手に入れることは､時代の勝者のように捉えられがちである｡しかし､対象の如何にかかわらずじっくりと物事に向き合うことは､時代がどんなに移り変わろうとも色あせることのない輝きがあるに違いない｡新聞を使った学びを通して､自分が必要と思われるものを取捨選択していくことは､その社会的事象にどう向き合ったらよいのか､よりよい社会形成のための第一歩となった｡必要感があるからこそ､子どもたちがどうしたらよいのか本気で考え､世の中に向き合っていくのである｡そんな学びに支えられた実践を､これからも子どもたちとともに楽しんでいきたい。